

施肥 有機質・土壌改良剤・化学肥料など（購入の場合はメーカー名記入）

2 / 3
使用量はkg/10a

<土づくりの使用資材・肥料について>

商品名	原料	メーカー(購入先)	全成分%	化成N%	化成P%	化成K%	有機率(%)	使用目的	計画		実績				
									使用量	使用時期	回数	化成施肥kg			
海力N1	海藻抽出物	長浜商店	0.67	0	1	0.23		元肥			0.0	600	9/25	1	0.0
ホウ砂	ホウ砂						100	元肥			0.0	375	9/25	1	0.0
バガス	サツキビカす	入江商店	0					元肥			0.0	4	9/25	1	0.0
硫酸カリ	硫酸カリ		0					元肥			0.0				
泥炭	泥炭	入江商店	0					元肥			0.0				
アニリップ6-8-3	木灰加農・葉茎骨粉・鹿肉骨粉・魚粉・たかね・黒豆粉	長崎油飼工業	0			100		元肥			0.0				
フインシュバワー	魚粉、米ぬか、有用微生物	長崎油飼工業	5.9	0	6.8	1.6	100	元肥			0.0				
カキライム	牡蠣殻100%	日化工業㈱	0			100		元肥			0.0				
ばかし 6-1-8	動物かす粉・植物油かす・副産物合肥料	日本バイオテック	6	0	1	8		元肥			0.0				
アグリハーモニー	苦土土壤要素・ケイ酸						100	元肥							
コフナ1号	好縫活性微生物、紙	ニチモウ(株)	1.03	0	1.02	0.68	100	元肥							
マイルドフミン	黒豆粉・供給・バクテ・石灰・ローランホース	三井物産アグリカンパネス	0					元肥							
草土	粒状腐葉酸														
富民源(高橋)	植物堆肥		0												
土衛門	モンモリノイト天然鉱物	カネサン工業(株)													
ゼオライト															
CAHクリー	硫酸カルシウム	宝種苗	0					土壤改良							
自然の恵み	糞糞、木質炭渣、牛糞		2.1	6.3	2.7										
完熟もみがら堆肥	もみがら														
菜種かす	菜種かす														
発根力	高根酸、高マグ酸、微量元素	(株)サングリー・ソリューション	3	0	0.2										
ライムショット	カルボン、マトリクトンハイドロゲン	アグリエート	0	0	0										

慣行農法との比較

*化学肥料

施肥分で比較して 当場比	5 削減
化学肥料	実施使用量 (kg/10a)
慣行使用量	33
計画使用量	15

*節減対象農薬

当場比	6 削減
節減対象農薬	計画回数
土壤消臭剤	
除草剤	
殺虫剤	
殺菌剤	
その他	
合計	25 64

病害虫の防除 使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、展着剤等を含む）

分類	商品名	原料/成分名	メーカー(購入先)	使用目的	計画		実績		使用回数上履							
					単価倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	単価倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	商品	成分
殺虫	ペストガード粒剤	ニテンビラム		コナジラム類、アフラム類	5g/1m²	5g/1m²	1~2g/1m²	1		1g/1株	10/4	1	1	1	4	
殺虫	アルバリン粒剤	ジノテフラン		コナジラム類、ヘモクリバム類、アフラム類	5g/1m²	5g/1m²	1~2g/1m²	1		1g/1株	10/4	1	1	1	5	
殺虫	ブリロッソ粒剤	シアントナリプローブル		コナジラム類、ヘモクリバム類、アフラム類、アザシカ類	18~24g/1m²	24g/1m²	100~300L	1							1	4
殺虫	アニキ乳剤	レピメクチン		コナジラム類、オオカバコ類、ヘモクリバム類	1000~2000	1000~2000	300L	1							3	3
殺虫	トランシフォームプロアブル	スルホキサプロル		アフラム類、コナジラム類	1000~2000	1000~2000	300L	1							2	2
殺虫	コルト顆粒水和剤	ビリフルキナゾン		コナジラム類	4000	4000	300L	1							3	3
殺虫	クリアーダーフルプロアブル	スピロミシブエン		コナジラム類	2000~4000	2000~4000	300L	1							2	2
殺虫	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド		オオタバコガ、ヘモクリバム類	5000	5000	300L	0							2	2
殺虫	ダニトロプロアブル	フェンピロキシメート		ナセグニ、タバコニコナジラム類	1000~2000	1000~2000	300L	1							3	3
殺虫	ペストガード粒剤	ニテンビラム		アフラム類、コナジラム類	2000~3000	2000~3000	300L	1							1	4
殺虫	モスピラン水溶剤	アセタミブリド		アフラム類、コナジラム類	2000	100~300L	100~300L	1							3	4
殺虫	モベントフロアブル	スピロトトラミタ		アフラム類、コナジラム類	2000	100~300L	100~300L	1							3	3
殺虫	マッヂ乳剤	ルフェスロン		コナジラム類、ダニ、ヘモクリバム類	2000~3000	2000~3000	300L	1							4	4
殺虫	コツツキアブル	クロルフェナビル		ダニ、タバコガ	2000	100~300L	100~300L	1							3	3
殺虫	アファーム乳剤	エマメクテン安息香酸		ヘモクリバム類、オオタバコガ、ダニ	2000	100~300L	100~300L	1							5	5
殺虫	プレバンソフロアブル	クロラントナリプローブル		コナジラム類、ダニ、ヘモクリバム類	2000	100~300L	100~300L	1							3	4
殺虫	ベネピアOD	シアントナリプローブル		コナジラム類、ヘモクリバム類、オオタバコガ、アフラム	2000	100~300L	100~300L	1							3	4
殺虫	グレーシア乳剤	フルキサメタミド		コナジラム類、トマトヘモクリバム類	2000	100~300L	100~300L	1							2	2
殺虫	ベニセイシングル	クリセレン酢酸防腐防酸		コナジラム類	500	100~300L	100~300L	1	500	40L	10/4	1	1	-	-	
殺虫	ムシラップ	ソルビタン脂肪酸ニス		アフラム類、ダニ、ヘモクリバム類、コナジラム類	500	100~300L	100~300L	1							-	-
殺虫	ダブルシーチャーSE	脂肪防歰シリゼド・スピサツ		ヘモクリバム類、トマトヘモクリバム類	1000	100~300L	100~300L	0							2	-2
殺虫	ベリマークSC	ジンジラリプロアブル		アフラム類、ダニ、ヘモクリバム類、コナジラム類	25ml/1L	400	100~500L	1							1	4
殺虫	フーモン	オリガセリン脂肪酸		ヘモクリバム類、ダニ、ヘモクリバム類、コナジラム類	1000	100~500L	100~500L	1							-	-
殺虫	ディアナSC	スピニラム		アフラム類、コナジラム類、ヘモクリバム類、オオタバコガ	2500~5000	100~5000	300L	1							2	2
殺虫	ペルクーフロアブル	イミクタジアブルベニカル		ダニに病、オオカブ病、灰色かび病	2000~4000	2000~4000	300L	1							3	3
殺虫	シグナムWDG	ピラクビストロビン・ボスカルド		ダニに病、オオカブ病、灰色かび病	2000	100~300L	100~300L	2							2	2,3
殺菌	ファンタジタ颗粒水和剤	ピリベニカルプ		ナシかび病、灰色かび病、黒ずみ病	2000~3000	100~300L	100~300L	1							3	3
殺菌	ホライズンDハイドロアブル	シモキサリル・ファモキサド		疫病、葉かび病	1500~2500	100~2500	300L	2							3	3,3
殺菌	エトフィンプロアブル	エタボキシム		疫病	1000	100~300L	100~300L	1							4	4
殺菌	ザンプロDMFロアブル	アメクタジン・ジメルモルフ		疫病	1500	100~300L	100~300L	2							3	3,3
殺菌	ランマンプロアブル	シアソフアミド		疫病	1000~2000	100~2000	300L	1							4	4
殺菌	レーベスプロアブル	マンジプロノミド		疫病	1500~2000	100~2000	300L	1							3	3
殺菌	オロンディスウルトラSC	オキサチアビロリン・マンジプロノミド		疫病	2000	100~300L	100~300L	2							2	2,3
殺菌	セイビアーフロアブル20	フルジオキソニル		灰色かび病	1000~1500	100~1500	300L	1							3	4
殺菌	カントスドライフロアブル	ボスカルド		葉かび病	1000~1500	100~1500	300L	1							3	3
殺菌	ネクスター・フロアブル	インピラザム		葉かび病	1000	100~300L	100~300L	1							3	3

備考:

肥料は、完熟堆肥有機肥料を主体に、化成養素量 16kg/10a以内に抑えます。

農薬は、リストの農業の中から、最大25回(成分カウント)まで抑えて使用します。

化学生長農業の使用を必要最小限にとどめています。

除草剤の使用せず、有機質を中心とした肥培管理を行っています。

よりよい土作り、作物作りに努めています。

ホルモン処理の通りの着果促進を見直し、マルハナバチでも可能な限り利用しています。

実績は、山口 端さんのものです。

圃場 NO.2 (2a)

実績 0kg、2回 (2024/12/7 現在)

5割減、5割減で表示します。

耕起開始:	令和6年8月15日
終了:	令和6年10月1日
播種開始:	
終了:	
定植開始:	令和6年9月1日
終了:	令和6年10月22日
収穫開始:	令和6年11月7日
終了:	令和7年6月20日